

伝えたい 残したい

20世紀 のうしく

問 文化芸術課(中央生涯学習センター内) ☎871-2300

かやぶき

茅葺屋根の正源寺

昭和30年代



現在の様子



正源寺は、今から約420年前に牛久城主由良国繁により、戦死者の菩提を弔うために建立されたと伝えられています。

かつて正源寺門前は水戸道中の牛久宿として栄え、撮影当時は宿駅の面影を残す茅葺屋根の家々がありましたが、維持管理などの問題もあり、姿を消していきました。

正源寺本堂も昭和39年までは茅葺屋根でしたが、本堂の建て替えにより現在では銅板葺き屋根になっています。



「昔のうしく」の写真(とくに昭和40年代までの写真・東部地区の写真)を募集しています。

里山の樹木

問 都市計画課

☎内線2524

第39回

ハンノキ

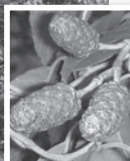
カバノキ科ハンノキ属の落葉高木、高さ15〜20mになります。北海道から琉球に分布し、水湿ある低地、湿原にふつうに生えます。県内でも全域にあり、市内では牛久沼畔や小野川他の川岸などに自生しています。樹皮は暗灰



①樹形: 結束町小野川岸
平成24年8月9日撮影



②雄花序: 田宮町低地
平成12年3月1日撮影



③成熟前の果実:
田宮町低地
平成21年8月13日撮影

褐色で、浅い割れ目ができてはがれます。葉は長さ1〜3・5mmの柄があり、卵状長楕円形で、長さ5〜13cm、幅2〜6cmです。花は11月(暖地)〜4月(北地)に開花します。雄花序は前年枝の先に1〜5個つき、長さ4〜7cm、はじめ直立しますが後に下垂します(枠内写真左)。雌花序は雄花序のすぐ下に1個ずつ1〜5個つきます。果実は10月頃熟し、果穂は球果状・卵状楕円形枠内写真右、長さ15〜20mm。

※牛久の里山樹木ハンドブック23ページ掲載。本の問い合わせは牛久自然観察の森(☎874・6600)まで。

【資料提供】NPO法人うしく里山会(文章: 石川満夫、写真: ①戸塚昌宏・②③渡辺泰)

文芸さろん | 弥生 |

湯たんぽを抱きてつららの唄を聴く
裸木の綾を織りなす小枝かな
煮凝のふかふかの味何といふ
陽気のなかウオーキングで汗ながす
寒空にしだれ桜につぼみ見え
春を思わせ日々たのしみ
朝陽さし山並みの色春めきて
あざやかな牡丹が咲いて春を待つ

和多田さん
枝さん
月田さん
一 空 涼
富美子

<次回募集テーマは「春」>

【作品募集】イラストや俳句、川柳、短歌など
【あて先】〒300-1292牛久市中央3-15-1
「広報うしく文芸さろん」係 FAX: 873-2512
E kouhou@city.ushiku.ibaraki.jp
【記載事項】作品、氏名、電話番号
匿名希望の方はその旨(ペンネームもOK)



「牛久の巨樹」発売中 ※お求めは都市計画課まで(1,200円)